

# 5・7・5に乗せて



## 竹の子川柳会

ねっこはねはなをささえてたいへんだ  
 小一 隆 希  
 さらあらいいあわでピカピカへんしんだ  
 小一 心 香  
 かみのけはらいおんのてできれいだね  
 小一 優  
 おいしそうおはながみずをのんでいる  
 小二 勇 斗  
 ねむいけど太陽あがりねむれない  
 小二 心 春  
 ぼくたちで地球の緑守りたい  
 小四 翔 太  
 学校は緑かこまれ大しぜん  
 小四 茉 実  
 昼からは気温あがる梅雨の前  
 小四 茉 秀  
 まっ黒の心の汚れ洗う日々  
 中二 海 斗  
 赤と青さいごに緑でかんせいだ  
 中二 海 士  
 時間かけやつと作品出来上がる  
 中三 ななみ  
 花あると部屋のふんいきよくなるな  
 高二 瑠 依  
 届かない想いをのせて花送る  
 高二 ちひろ  
 雨あがり空にキレイな虹かかる  
 高三 沙 耶

## ひよし川柳会

金星が汗と涙でインタビュー  
 山本 雅之  
 連れ添うて痛いかゆいを解り合  
 渡辺 光男  
 おでかけが特効薬のひきこもり  
 中城 英雄  
 痛いのは理想現実夢破れ  
 熊本 忠真  
 膝痛で待合室は賑やかだ  
 兵頭 好子  
 沖繩の痛みどうする日本丸  
 米子 達雄  
 痛いほどわかるよだからそばに  
 伊勢本 恵  
 おでかけは海外という富裕族  
 大崎 五葉  
 おでかけを暫く留める電話ベル  
 宮川 柳酔  
 自慢する特産物に里の風  
 宇都宮 忍  
 助け合って地産地消で頑張ろう  
 水野すみこ  
 耐えている握りこぶしに汗をかく  
 若宮 賢敬  
 妊産婦とんと見かけぬ過疎の里  
 川添 忠昭

## 鬼王丸のほのぼの日記

作・榊形 浩人  
 絵・にのみや なつみ



## 鬼北の足跡をたどる



### 中世日本の風呂事情

史跡等妙寺旧境内が隆盛した中世（鎌倉、室町、戦国）という時代、風呂はどういったものだったのでしょうか。

現代人がイメージするような湯舟に張った湯に肩までつかる入浴風呂は、江戸時代初期にいわゆる「五右衛門風呂」から始まったものといわれています。絵巻物に描かれた絵や各地の発掘調査から導かれる中世の風呂の実態は、現代でいう「サウナ」のように蒸気を浴びる「蒸し風呂」と、湯を桶で浴びる「沐浴」でした。

広島県北広島町にある史跡吉川氏城館跡（戦国大名毛利氏の領国支配の一翼を担った吉川氏に関連する城・館・菩提寺）の一つ、万徳院跡では東西三間、南北二間規模の風呂屋跡が発掘調査によって見つかっています。湯釜で発生させた蒸気を風呂形という小部屋に引き込み、蒸気浴する蒸し風呂形式のもので、現在建物が復元され、実際に入浴体験をすることが出来ます。

また、鬼北町の等妙寺旧境内の福寿院跡（平坦部12）と呼ばれる平坦部にも、推定風呂跡の竈と考えられているコの字状石組遺構が現況で確認できます。詳細は、今後の発掘調査の進展によって、明らかにすることでしょう。



▲万徳院跡の復元風呂屋



▲等妙寺旧境内福寿院跡の推定風呂跡の石組遺構